

# 古代文字 & 蔵に関するワークショップ～福島の復興は喜多方の子どもたちから！～



喜多方建設事務所  
企画調査課 技師 柳沼良輔

ふくしまから はじめよう。子ども未来創造まちづくり事業 (H26福島県総合計画重点プログラム主要事業)

地区名: 喜多方市中心市街地地区

## 1 概要

- H26福島県総合計画の重点プログラム主要事業の一つ。
- 子どもたちが**地域資源(古代文字・蔵)**に触れることを通じて、地域に**愛着**をもち、将来にわたって**本県復興の担い手**になることのきっかけづくりとして、**ワークショップ**等を実施。
- 「古代文字」に関する取組:  
喜多方市内の小学校(3～6年生)  
(第二小、関柴小、豊川小、熱塩・加納小、山都小)
- 「蔵」に関する取組:  
喜多方桐桜高校エリアマネジメント科2年生

## 2 「古代文字」に関する取組(小学生)

らくてん

- (1) 講師: 楽篆工房 主宰 高橋 政巳 氏
- 刻字の草分け的存在。
  - 書を通じ、文字のもつ歴史的意味や美しさの伝承のために幅広い活躍をしている。



日付	内容	小学校
9月22日 (月)	古代文字 ミステリーウォーク	関柴小:3年生
6月～12月 【計12回】	古代文字に 関する講演	第二小:3、5、6年生 関柴小:3～6年生 豊川小:3～5年生 熱塩・加納小:6年生 山都小:3年生
11～12月 【計5回】	古代文字の篆刻 (印づくり)	第二小、関柴小、豊川小、 熱塩・加納小:6年生

### (2) 古代文字ミステリーウォーク

- 商店街の「**古代文字の看板**」を探しながら散策する謎解きゲームに参加した。
- 古代文字が読めなかったり意味が分からない場合は、**商店主に尋ねて理解し**、交流も深めた。



ミステリーウォーク

### (3) 古代文字に関する講演

- 講演前に、先生から児童一人ひとりに、**古代文字で書かれた名前カード**を配布した。
- 児童の名前の漢字の意味や由来等を解説いただき、**名前に込められた想い**について児童たちは興味深く聴いていた。



講演

### (4) 古代文字の篆刻(てんこく)

- 卒業制作**の一環で、児童一人ひとりが**自分の名前の一文字を古代文字**で彫り、オリジナルの「印」を制作した。



篆刻

## 3 「蔵」に関する取組(高校生)

- (1) 講師: (株)ワークヴィジョンズ代表取締役 西村 浩 氏
- 建築、土木、まちづくり等、常に「まち」を視野に入れ、分野を超えてモノづくりに取り組む。
  - 日本建築学会賞、土木学会デザイン賞 外多数受賞。



回	日付	内容
1	7月4日(金)	先進地視察・現地調査(川越市)
2	7月7日(月)	ワークショップ①(アイデア抽出)
3	7月8日(火)	ワークショップ②(模型制作)
4	9月9日(火)、11日(木)	ワークショップ③(現場実習)

## (2) 題材箇所

- 昨年度、桐桜高校生と地域の方々が芝張りを実施した、小田付地区の空き地を題材とし、「人が立ち寄りたくなるようなアプローチづくり」について考えた。

## (3) 先進地視察

- ワークショップに先立ち、蔵を活用したまちづくりの先進地である埼玉県川越市の街並みを視察した。
- 地元のNPOの方々の講演を聴き、川越のまちづくりの歴史や蔵の活用の仕方などを学び、喜多方との比較や参考になることを考えた。

## (4) ワークショップ

- グループ毎に、小田付地区の「良いところ」「将来こんなまちになってほしいと思うこと」などについて整理し、意見を共有した。
- 実際にどんな場所にしたいのか、コンセプトを決めて模型を制作した。
- 模型をもとに、地域の方々の協力もいただきながら、レンガ・芝張り、敷砂利の施工を行い、アプローチを完成させた。
- 今回の取組が評価され、環境省主催「東北地方ESDプログラムチャレンジプロジェクト2014」において、優秀賞を受賞した。



先進地視察



グループワーク



現場実習



完成したアプローチ

## 4 事業の成果・効果

### (1) 外部への発信

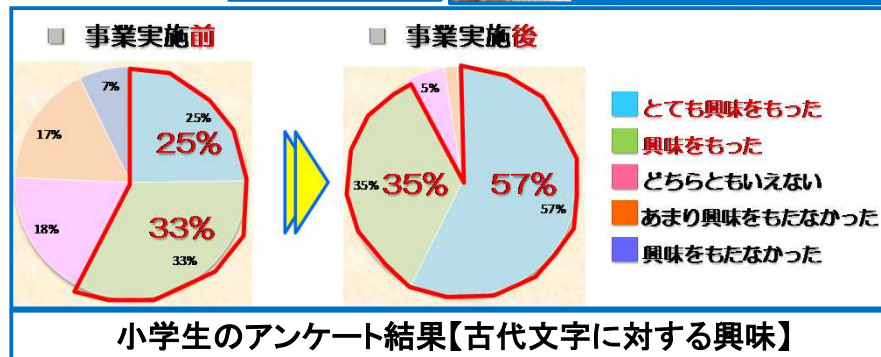
- ニュースレターを当事務所のホームページに掲載するとともに、報道機関へ投げ込みによる各紙への記事掲載などにより、広く周知が図られた。

### (2) 事業の効果【子どもの視点】

- 小学生にアンケートを行った結果、事業の実施前後で、古代文字に対する関心が高まる傾向が見られた(右図参照)。
- 高校生は、「地域への関心が高まり喜多方を良くしたい気持ちが強くなった」、「大人になったら必ず訪れたい場所ができた」など、地域への愛着やまちづくりに対する意識の高まりがうかがえた。

### (3) 事業の効果【教員・講師の視点】

- 小学生は、漢字の成り立ちなど、地域資源に触れて漢字に対する意識の向上が見られ、地域に愛着をもったようである。
- 高校生は、自分たちで考えたデザインが実際に形となって、まちに姿を現すことに驚き、まちづくりに対する意欲がわいたようである。



## 5 おわりに

- 子どもたちの愛着心はすぐに根付くものではないことから、教育機関や地域団体等と連携し、まちづくりへの参画を継続させる仕組みづくりが大切である。
- 今回の取組がそのきっかけの一つとなり、さらに他地域に波及することにより、本県の復興の担い手づくりの一助となれば幸いである。